

池田良穂(大阪経済法科大学
客員教授)の

新クルーズ学

▶19◀

クイーンメリー2に乗る

再生キナードのフラッグシップ「クイーンメリー2」(以下QM2)は、フランスのアトランティック造船所で建造されました。総トン数は15万トンで「クイーンエリザベス2」(以下QE2)の約2倍で、完成時には世界最大のクルーズ客船でした。

キナード社傘下に収めたカーニバルグループの総帥ミッキー・アリソン氏は、QM2の建造

ス仕様にして完成させたQE2では若干の等級差を残しました。それがレストランです。上等級の船室の乗客用に特別のレストランを設けて、よりよいサービスと食事を提供したのでした。

再生キナードのフラッグシップ「クイーンメリー2」(以下QM2)は、フランスのアトランティック造船所で建造されました。総トン数は15万トンで「クイーンエリザベス2」(以下QE2)の約2倍で、完成時には世界最大のクルーズ客船でした。

上流社会を彷彿とさせるサービス

パクトです。一方ブリタニア・レストランはデッキ2と3にわたる2層吹き抜けの立派なレストランで、QM2の初代船長が最もお気に入りの公室だったそうです。かつての大西洋横断航路の定期客船の豪華ダイニングルームを彷彿とさせるような立派な作りです。最初の晩、ここでの夕食をと思ったときには、安い方の客室をとって良かったと思ってしまうました。

フリーシーティングが増えつつあるクルーズ客船ですが、QM2では、夕食の時のテーブルは航海中同じで、ウェイターさんも同じ人が担当します。以上乗船していたことか

ら日本語のメニューもお勧めの料理などの説明を受け、前菜、スープ、好みを聞くとお薦めのワインをいくつかお薦めしていただきました。クルーズ中、一度も注文した料理が間違っていないと驚かされたことはありませんでした。ウェイターの



2層吹き抜けのブリタニア・レストラン

教育も行き届いていることがわかります。アメリカの会社のカジュアルクルーズのレストランと雰囲気がいぶん違うのに気がつきました。それは夕食時の乗客の服装でした。イギリス発着のワールドクルーズで、年配のイギリス人が50%以上を占めており、寄港中でドレスコードがカジュアルの日であっても、男性はネクタイにスーツ、女性はドレスを着た人が多いのです。夕食時には正装をして食事を楽しむというイギリスの上流社会の名残が漂っているような気がしました。船内で聞こえる英語も、米語ではなく、気品のあるキングスイングリッシュでした。